

(第3回)

中
2022

国

語

始める前に左の注意事項を読みなさい。

- 始めの合図があるまで開いてはいけません。
- 問題は全部で22ページあります。
- 答えはすべて解答用紙に書きなさい。
- 問題冊子、解答用紙のいずれにも受験番号、氏名を書きなさい。
- 質問のあるときは静かに手をあげ先生の指示を待ちなさい。
- 終わりの合図があったら、ただちに筆記用具を置きなさい。
- 問題冊子を持ち帰ってはいけません。

受験番号	
氏	名
	ふりがな

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

珠子はミニ砂像を作つて、ふたつのことを知つた。

まず、砂像はとがっているところがすくないほうがいい、ということ。

それから、くずれないためのバランスも大事、ということ。

朝食のハムエッグを見つめながら、珠子は火曜日にどんな砂像を作るか考えた。

「ブタ。ヒヨコ……」

——とがってないけど、形が単純すぎる。

「ネコ。イヌ……」

——悪くないけど、「ありがち」って思われそう。

ブラインドカーテンのすきまから入りこんだ光がテーブルに縞模様を描いているのを見て、シマウマがひらめいた。

——ムリムリ。脚が細すぎる。

カンガル―はバランスをとるのが難しそうだし、ライオンは葉真のお気に入りだ。

※² シラベさんは「経験と技術力で劣る」※³ サンドイッチクラブが葉真に勝つには、テーマ選びにかかっている

と
① をくれた。

つまり、② なんでもいいけど、なんでもよくないってこと。テーマ選びは難しい。

※⁴ ハムちゃん、ペンギンがいいと思うんだけど。どうかな？」

月曜日、※⁵ 進秀学舎の授業後、珠子はヒカルの携帯にメッセージを送った。

二時間くらいして、ヒカルから「またペンギン？」と返事がきた。

「ペンギンはとがっているところがすくないから、ぴったりだと思いの。作ってみたい」

「今、勉強中。明日話そう」

③ つれない返事。でも、珠子は「さすがハムちゃん。見習わなくちゃ」と反省した。

帰宅後、テーブルにおいてあったオムライスを食べ、すぐに塾の宿題にとりかかった。

おわったところで、パソコンでペンギンを調べた。そのついでに、シラベさんのサイトにもアクセス。珠子は

今すぐ砂像を作りたくて、

④

してきた。

そうこうしているうちに、西の空が赤く染まりはじめた。

待ちに待った火曜日。

珠子が朝食の前に漢字練習をしていたら、母親が「早く食べないと」

⑤

た。

「だいじょうぶ。塾に間にあうから」

「なに言ってるの。今日は雪原学園の説明会でしょ。塾にも欠席の連絡を入れたのに」

「あ……」

「さ、早く食べて支度して」

珠子は※6 暗記パン作戦を中断して、飲みこむようにしてロールパンを食べた。

この日の学校説明会は、珠子の家から電車で四十分ほどの私立の共学校だった。

母親は行きの電車の中で、「ポーツとしてないで、ちゃんと先生方の話をきくのよ。六年間、お世話になるかもしれないんだから」と言って、いつもの注意事項を珠子の耳もとでささやいた。

「雰^{ふん}囲^い気^き。制服。部活動。学習内容。そういったポイントをしつかり確^{かく}認^{にん}して志望校を決めるの。でも、最後の決め手は直感よ。珠^{たま}ちゃんの心にビビッときたところにしなさい」

よく考えて決めると言っておいて、最後は直感というのも、いつもの決まり文句だ。珠子は⑥だまっとうなずいた。

ガラスばりの校舎に入ると、水色のワンピース^{すがた}姿の女子生徒と、同じ色のシャツを着た男子生徒が、元気にあいさつをしながら資料を配っていた。

学校説明会は春からかぞえて八校目だったので、珠子は慣れた手つきで資料を受けとって説明会の会場に向かった。

校舎の最上階にある講堂に足をふみいれると、ステージで合唱部が英語の歌を歌っていた。珠子は配布された学校案内のパンフレットを見た。表紙をひらくと、男女の生徒たちが希望に燃える目で青空を見つめていた。雲の上に「世界にはばたくリーダーとなれ」と書いてある。

説明会が始まると、ステージにあらわれた校長先生も、「世界で通用するトップリーダー」とか「グローバルリーダー」といった言葉をたびたび口にした。

なんとなく横を見たら、頭の良さそうな女の子がすわっていた。パンフレットの生徒と同じ目をして壇上^{だんじょう}を見つめている。見渡^{みわた}したら、未来のリーダーたちとその保護者でいっぱいだった。

珠子は⑦急に心細くなって、床^{ゆか}に視線^{しせん}を落とす。

帰宅^{きたくご}後、母親が店に出かけてから、珠子は自転車^{じてんしゃ}で公園に向かった。

珠子が砂場^{すなば}に着くと、ヒカルが^{※7}筋^{きん}トレシヤベルで砂山を作りはじめていた。

「※⁸ 黄金のシャベルは？」

「葉真^{ようま}がまた勝手に持ってた」

「ひどい。シラベさんは？」

「まだ来てない」

珠子とヒカルは交代で筋^{きん}トレシャベルを使って、
⑧ になりながら砂山を築いた。

完成後、珠子は「ペンギンのことなんだけど……」と言って、ネットの画像をプリントアウトしたものをヒカルに見せた。

向かいあったコウテイペンギンの間で、灰色^{はいいろ}の産毛^{うぶげ}におおわれた小さな赤ちゃんが、翼^{つばさ}をひろげている写真を見て、ヒカルは「親子ペンギンか」とつぶやいた。

「うん。大人のペンギン二羽と赤ちゃん。成長すると身長一メートルぐらいになるんだよ」

「砂山^{すなやま}と同じ高さだね。でも、ライオンにくらべると地味^{ぢまい}なわりに難^{むずか}しそう。ま、やってみよう」

砂山に線を引いて、三羽のペンギンの位置を決めた。

作業開始からほどなくして、珠子^{たまこ}は⑨ 行きつまった。お母さんペンギンの頭から背中^{せなか}にかけての釣り針^{つりばり}のようなカーブがうまくけずれない。首は細く、もつと細く、と思^{おも}いながらけずっていたら、頭^{あたま}がぼろりともげた。

「あーあ。ハムちゃんの言ったとおりだ」

サイズを小さくしてなんとか完成させたけど、みすぼらしい親子ペンギン像になった。

「これじゃあ、葉真^{ようま}に勝^かてないね」

「じゃあ、ペンギンは却下^{きやくげ}。ほかのにしよう」

珠子たちが砂像をこわそうとしたら、背後から「それでいいんじゃない？」とシラベさんの声がした。

「あ、シラベさん」

「ペンギン、悪くないと思うよ。細長い体が足に向かってだんだん細くなっていくから、バランスをとるのにひと苦労しそうだね。挑戦ちようせんしがいのあるテーマを選んだところを、おれなら評価する」

「じゃあ、葉真に勝てる？」

「そこはわかんないよ。でも、見込みみこはあるんじゃない」

ヒカルはがぜんやる気になって、「さっきの発言は撤回てつかい。やっぱりペンギンにしよう。水、飲んでくる」と言っ
て水飲み場に走っていった。

珠子も喉のどがカラカラだった。木陰こかげで麦茶を飲んだら、あつというまに水筒すいとうがからっぽになった。

ヒカルがタオルで顔の汗あせをふきながらもどつてきた。珠子のとなりにすわって砂場すなばの壁かべにもたれかかると、膝ひざ
小僧こぞうまで砂の中に足をつっこんだ。長い息をはいて、「⑩ 気持ちいい」とつぶやく。

珠子もズボンの裾すそをまくりあげて、砂の中にかかとおしこんだ。熱い砂の下にしめった砂がひそんでいて、
ふくらはぎがひんやりした。

「ハムちゃんは中学校の説明会、行った？」

「うん。第一志望の学校だけ。*₉ タマゴは？」

「いっぱい行ったよ。今日も行ってきた。なんかね、みんな大人っぽい。学級委員とかやって、将来しやうらいの夢が
決まってる、リーダーになりそうな子たちばかりだった」

「きつと、その子たちもタマゴのことをそう思ってるよ」

それはないと思う、と珠子は心の中でつぶやいた。

珠子は学級委員になったことがない。将来しやうらいの夢もあれもこれもいいなあと思うだけ。世界にはばたくリーダー

なんて、とてもとても想像できない。自分が世界とかかわりあうことなんて、この先あるとは到底思えなかった。

珠子は目をとじて、セミの声に耳をすませた。

風のない午後。

光の粒子がまぶたをすりぬけて、星のように暗闇の中で

⑪

とまたたいている。

セミたちは鳴くというより「生きてる！ 生きてる！」ときげんでいる。

——来年の今ごろ、なにしているのかなあ。

そして、わたしはどこに向かっていくのだろう。

—— 中略 ——

シラベさんはポケットから缶コーヒーをとりだした。ゴクッと喉を鳴らしてひと口飲むと、「こんなこともあったよ」と言っけてスケッチブックをめくった。

「これ、マルタ島で作ろうと思った砂像のスケッチ」

馬に乗った女戦士の絵を見た珠子は「きれい」と言い、ヒカルは「かつこいい」と言った。

「マルタ島って知ってる？」

「うん。イタリアの近くにある島」とヒカルが答えた。

「正解。マルタ島は地中海に浮かぶ小さな島んだけど、そこで毎年、砂像の展覧会をやっているんだ。四年前、お声がかかって、おれは喜んで飛んできた。きれいな島だったよ」

マルタ島は海岸線のほとんどが岩場で、石灰質の白い砂だそうだ。観光客に人気の海水浴場で砂像を作ることになった、とシラベさんは言った。

「ちなみに、砂は島の内陸部から運んできた山砂だった。砂利がたくさんまぎっていて砂像作りに最適な砂とは

言えなかったけど、外から砂を持ち込むと外来種が入りこむ危険性があるから仕方ない。』
ことで、制作にとりかかったんだ。二日目の朝、おれは砂浜になにかがうまつてるのに気づいた。掘りだしてみたら、おしゃぶりだったんだ」

——おしゃぶり……。

この前、シラベさんはおしゃぶりも砂の中から出てきた、と言っていた。

珠子は背筋をのびし、まばたきひとつせずにシラベさんを見つめた。

「輪っかがついた半透明の黄色いやつで、砂にうもれていたとは思えないくらい、きれいなおしゃぶりだった。とはいえ、警察に届けるようなものでもないから、その場で捨てた。で、夜になって、ジェイルっていう砂像アーティストと酒を飲んでいたとき、昼間のできごとを話したんだ。そうしたら、ジェイルは急に青ざめて言った。『そのおしゃぶりは海でおぼれ死んだ難民の赤ん坊のものかもしれないぞ』って」

「難民？」

珠子が^⑮小首をかしげると、シラベさんはスケッチブックに簡単な地図を描いて説明した。

「こつちがアフリカ。こつちは中東。この辺の一部の国で戦争していたり、政治家が好き勝手に権力をふるったりして、そこで暮らしている人たちの生活がめちゃくちゃになったんだ。それでかれらは生まれ育った国を脱出して難民になり、新しい生活の場をもとめてヨーロッパ、特にドイツにわたろうとしたんだ」

難民は密航業者に高いお金をはらって、おんぼろ船やビニールボートにぎゅう詰めにされて、ヨーロッパの玄関口であるマルタ島を目指した。でも、重量オーバーで船が沈んだり、海上をさまよっているうちに飲料水が底をついたりして、命を落とす人があとを絶たなかった、とシラベさんは言った。

「ようするに、おれが見つけたおしゃぶりは難民船に乗っていた赤ちゃんのものなんじゃないかって、ジェイル

は言ったんだ。翌朝、ジェイルは荷物をまとめて島を出ていった。ほかの仲間たちも、でっかい砂山を浜辺に残して、つぎつぎと島をはなれた」

「えっ、どうして？」

珠子が身を乗りだしてたずねると、シラベさんは「みんな、ジェイルの話を信じたんだよ。だいたい、こんなときに観光客のために砂像イベントをやるのはおかしいんじゃないかっていう思いが心のどこかにあって、あの一件で確信に変わったんだろうね」と言った。

「シラベさんはどうしたの？」

「おれは残った。海外から仕事の依頼が来るようになって日が浅かったし、とにかく作品を作りたかったんだ。でも、あの日以来、手が動かなくなつた。難民がおしよせてくる島で、おぼれ死んだ人たちが沈んでいる海のすぐそばで、なにを作ればいいのかわからなくなつた。それでも、なんとかつづけたよ。でも、島の近くで難民船の沈没事故が起きて……」

そう言ったとき、シラベさんはだまりこくつた。

頭上で木の葉が ⑬ と音を立てた。

なまあたたかい風が珠子たちとシラベさんの間を通りぬけていく。

小さな男の子が母親に手を引かれて砂場にやってきた。砂の上にぺたんとおしりをつけて、母親の手を借りながら小さなスコップで砂をすくってはバケツに入れていく。

珠子はおしゃぶりがまだ似合いそうな男の子を見つめながら、遠い海の向こうで起こったできごとを考えた。

⑭ ヒカルもなにも言わずに男の子を見ている。

シラベさんが口をひらいた。

「それからは毎日、砂ってなんだろう。砂で彫刻を作るってどういうことなんだろうって考えて……。この前、久しぶりにマルタ島に行つたんだ。そこで作ったのがこれ」

シラベさんは飲みほした缶コーヒ^{かん}ーをポケットにしまつて、珠子たちにスマホを見せた。

そこには、横たわつた若者^{わかもの}を抱^{いだ}く女神^{めがみ}の砂像^{さざう}が映^{うつ}つていた。馬に乗つた勇ましい女戦士とうつてかわつて、やさしさと悲しみに満ちた女神^{めがみ}だつた。若者が手をのばしているその先に、ぬけるような青空とエメラルドグリーンの海^{うみ}がひろがつている。

ヒカルがつぶやいた。

「この人の手の先に^⑬があるんだね。つかめなかつた^⑭が……」

イルカの砂像のように、声なき生き物たちの思いを世界に発信したり。

女神^{めがみ}の砂像のように、命を落とした難民^{なんみん}を吊^{とむら}つたり。

シラベさんは砂の中から思わぬものを見つけては、過去や今と向きあつている。

学生時代にシラベさんがたまたま出会つたという砂像。きっかけは風船のようにふわつとしていているけど、糸をしつかりつかんでいけば、世界とつながるどこかにたどりつけるのかもしれない。

(長江優子『サンドイッチクラブ』より)

※1 葉真……珠子とヒカルの砂像作りのライバル。

※2 シラベさん……日本で三人しかいない砂像彫刻家の一人。葉真とヒカルはシラベさんから砂像の作り方を教わつた。

※3 サンドイッチクラブ……珠子とヒカルで作つた砂像作りのクラブ。

※4 ハムちゃん……ヒカルのニックネーム。名字の「羽村」から付けた。

※5 進秀学舎……珠子の通っている学習塾。

※6 暗記パン作戦……ヒカルが珠子に教えてくれた受験勉強のための作戦。食事の前に漢字や地名など暗記系をマスターする。覚えるまで食事に手をつけない。

※7 筋トレシャベル……重いシャベル。筋肉が盛り上がってたくましい体つきになりそうなためそう呼んでいる。

※8 黄金のシャベル……シラベさんが外国で買ったシャベルを砂山制作用に改造したもの。軽くて使いやすい。葉真とヒカルはシラベさんから自由に使えと言ってもらっているのだが、葉真が独占しているため、ヒカルは砂像対決で取り返そうとしている。

※9 タマゴ……珠子のニックネーム。

問一 空らん①には「助言」という意味のカタカナ語が入ります。カタカナ五字で答えなさい。

問二 ——線部②「なんでもいいけど、なんでもよくない」とはどういうことでしょうか。その説明としてもっともふさわしいものを、次から選**び**記号で答えなさい。

ア 選んではならないテーマはないけれど、簡単な動物でも難しい動物でもダメで、ほどほどのレベルのものがよいということ。

イ どんな動物を選んでもよいけれど、作るのが難しいテーマは崩れてしまう恐れがあるため、避けた方がよいということ。

ウ どんなテーマを選んでもよいけれど、身近な動物では面白味に欠けるため、珍しい動物がよいということ。

エ 選んではならない動物はないけれど、葉真のテーマよりも引き立つものでなければならぬということ。

問三 ——線部③・⑨・⑮の意味としてもっともふさわしいものを次から選**び**、記号で答えなさい。

③「つれない」

ア 言葉数の少ない

イ 思いやりがない

ウ 的が外れた

エ 予想外の

⑨ 「行きづまった」

ア 何をすべきかはわかってているが、スムーズに進められなくなった
イ どうしたらよいかわからず、息ができない感覚におそわれた
ウ 思うように進まず、動きがとれなくなった
エ 頭が混乱して、イメージしたことができなくなった

⑩ 「小首をかしげた」

ア ちよつと考えこんだ
イ 吹き出した
ウ 納得がいかなかった
エ うなだれた

問四 空らん④・⑧・⑪・⑬に入る語句を次から選び、記号で答えなさい。

ア ニコニコ イ さらさら ウ ざわわわ エ はらはら オ チカチカ
カ むかむか キ うずうず ク ふうふう ケ ヘトヘト コ わさわさ

問五 空らん⑤に入る語句を次から選び、記号で答えなさい。

ア なごませ イ せかし ウ おどし エ たまげさせ

問六 — 線部⑥「だまってうなずいた」時の珠子の気持ちの説明としてもっともふさわしいものを、次から選
び記号で答えなさい。

ア 母親は学校説明会の度に様々なことを教えてくれ、いつも母親の言う通りだと思って納得している。

イ 母親がいつも同じことを言うので腹を立てているが、反論すると何をされるかわからないのでじつと
がまんしている。

ウ 母親の話に矛盾を感じているが、指摘しても仕方がないので、静かにしていようと思っている。

エ 母親の話はいつも同じでその内容もピントが外れているので、おかしいけれどぐつと笑いをこらえて
いる。

問七 — 線部⑦「急に心細くなって」とありますが、それはなぜでしょうか。その気持ちをよく説明している
箇所を — 線部⑦より後ろから中略までの間で連続する四文を抜き出し、最初と最後の五字を抜き出して
答えなさい（句読点を含む）。

問八 — 線部⑩「気持ちいい」とありますが、ヒカルは何に気持ち良さを感じているのでしょうか。ふさわし
いものを二つ、次から選び記号で答えなさい。

ア 熱い砂 イ 疲労感 ウ 汗 エ 水 オ タオル カ しめった砂 キ 風 ク 充実感

問九 — 線部⑫「生きてる！生きてる！」とさげんでいる」とありますが、なぜそのように聞こえたのでしょうか。

ア セミは今の自分と異なり、精いっぱい鳴いているから。

イ セミが毎日をむだに過ごしている自分を、しかってくれていると感じたから。

ウ セミは生きている間は、ずっと泣き続けるものだから。

エ セミがぬげがらのような自分を、励ましてくれていると感じられたから。

問十 — 線部⑬「喉のどを鳴らして」とありますが、「喉が鳴る」を慣用句として使う場合の意味をA群から選び記

号で答えなさい。また、この時のシラベさんの気持ちの説明としてもっともふさわしいものをB群から選び、

記号で答えなさい。

A ア 声がよく、歌が上手である。

イ 欲しくて欲しくてたまらない。

ウ 苦しいことも過ぎてしまえば忘れてしまう。

エ ごちそうを目の前にして、ひどく食べたくなくなる。

B ア その時は忘れたいと思うようなことだったが、今となつては経験して良かったと思えるような思い出となつていて、なつかしんでいる。

イ 人の死を直に感じるような経験を思い出し、これから話そうとしている話に緊張を感じている。

ウ まだ若くて未熟だった自分を思い出して恥ずかしくなり、もう二度と話すつもりはなかったが、せがまれたので仕方ないと感じている。

エ 今までテレビでしか知ることのできなかつたような事件を目の前にして感激したことが思い出され、身震いする思いでいる。

問十一 空らん⑭には「その土地やその環境に来たら、そこでの習慣ややり方を守るのが賢い生き方である」という意味のことわざが入ります。もつともふさわしいことわざを次から選び、記号で答えなさい。

ア 虎穴こけつに入らこずば虎子こじを得とず

イ 過ぎたるはなおよとびざとるが如ごとし

ウ 百聞は一見にしかず

エ 郷ごうに入いつては郷ごうにしたが従え

問十二 ——線部⑰「ヒカルもなにも言わずに男の子を見ている」とありますが、その時のヒカルの気持ちの説
明としてもつともふさわしいものを、次から選び記号で答えなさい。

ア この幼い男の子はマルタ島の難民とは何の関係もないが、海で死んだかもしれない赤ん坊の姿と重ね
合わされ、悲しんでいる。

イ おしゃぶりをくわえていた赤ん坊は、もし生きていたらこの男の子ぐらいに成長しているんだろうと
思うと辛くて仕方がなく、言葉を失っている。

ウ 海の向こうで起こったできごとを、この男の子は何も知らずに無邪気に遊んでいるけれど、いつかは
現実を知らなければならぬことを気の毒に感じている。

エ 自分たちが砂像作りで先に使っていた砂場を、いつのまにかこの男の子に取られてしまい、母親がい
るのでどくように言うわけにもいかず、目で訴えている。

問十三 二か所ある空らん^⑮には共通した漢字二字の言葉が入ります。次から選び、記号で答えなさい。

ア 悲嘆 イ 戦争 ウ 自由 エ 野望

問十四 この文章を読んだ生徒が、感想を述べ合っている。次のA～Dの四人の感想の中で、本文を誤つてとらえている生徒を次から選び、記号で答えなさい。

生徒A 「珠子とヒカルは私たちと同じように中学受験をしようとしているんだね。珠子が学校説明会に向かう際の母親とのやり取りや、会場での珠子の気持ちはよくわかるなあ。私も志望校をなかなか決められず、説明会でも不安で仕方なかったよ。」

生徒B 「受験勉強で忙しいだろうに、そんな中でも砂像作りに励むことができている珠子とヒカルをうらやましく感じたよ。勉強以外に熱中できるものがあるっていいよね。しかもヒカルはちゃんといじめをつけられていたので、私もヒカルのようになりたいと思ったよ。」

生徒C 「私はマルタ島の難民の話が衝撃的だったなあ。砂の中から出てきたおしゃぶりが難民のものだなんて。今住んでいるところでは暮らせなくて、命をかけてまで脱出するなんて想像できないよ。しかもシラベさんは撃たれて死んだ難民の赤ん坊を目の当たりにしたんだもんね。」

生徒D 「難民と比べたら、私たちは本当に幸せだね。シラベさんの砂像との出会いはたまたまたたけれど、そのおかげで世界とつながることができた。珠子もシラベさんの話を聞いて、自分の将来について多少なりとも考えることができたと思うな。」

二

次の文は、中学三年生の女の子が、祖母へ出した手紙文（あて名、時候のあいさつ等を外したもので、正式な手紙文としての文章ではありません。）の一部ですが、順番がばらばらになっています。よく読んで、後の問いに答えなさい。

- A ぜび（ 1 ） 。お待ちしております。それでは、お体には気をつけて過ごしてください。
- B わたしは普段の学校の授業を舞台にしたコントに出ます。そして、「砂尾菜子（すなお なこ）」というおとぼけ生徒の役で登場します。一生懸命練習をしたので、どうしてもおば様には【見てもらいたい】と思います。
- C ちょうどその日、わたしの学校では卒業式後にお別れ会があります。ぜひご出席いただきたいと思いい手紙を書きました。
- D （ 2 ） が続いておりますが、おば様はお変わりありませんか。
- E お別れ会では、コントや劇や音楽などおもしろいものがたくさん発表されます。
- F 十時から卒業式が始まりますので、西武線なら、小川駅に九時半ごろおいでになればちょうどよいでしょう。
- G 《 X 》 は毎日元気に学校へ通っています。
- H あと二か月で、卒業式です。おば様のご自宅で、三年前、中学校入学のお祝いをしていただいたことが（ 3 ） 思い出されます。

問一 (1) (2) (3) に入るのものにもっともふさわしいものを次からそれぞれ一つずつ選び記号で答えなさい。

(1) ア ご遠慮ください イ おうかがいください ウ お喜びください エ おいでください

(2) ア ひどい暑さ イ きびしい寒さ ウ あたたかい日 エ 秋らしい日

(3) ア さみしく イ くやしく ウ なつかしく エ はげしく

問二 《 X 》に入る適語を三字以内で抜き出し答えなさい。

問三 Bの文の【見てもらいたい】の内容について、正しい敬語の使い方に直したものを次から選び記号で答えなさい。

ア 出てほしい

イ 拝見していただきたい

ウ 来られてほしい

エ ご覧いただきたい

問四 右の文を正しい手紙文にしたものを次から選び記号で答えなさい。

ア D・H・C・E・B・F・G・A

イ D・H・G・C・E・B・F・A

ウ D・G・H・C・E・B・F・A

エ H・D・G・C・E・B・F・A

問五 この手紙は何を目的にしたものか。もつともふさわしいものを次から選び記号で答えなさい。

ア 案内 イ 集合の連絡 ウ 形式的なあいさつ エ 自慢

三 次の短歌（A～D）と俳句（E）について後の問いに答えなさい。

A 夏の風 山よりきたり 三百の 牧の若馬 耳ふかれけり 与謝野晶子

B ふるさとの 山に向ひて 言ふことなし ふるさとの山は ありがたきかな 石川啄木

C 寝静まる 里のともしび みな消えて 天の川白し 竹やぶの上に 正岡子規

D 川ひとすじ なたね千里の 宵月夜 母が生まれし 国うつくしむ 与謝野晶子

E 流水や宗谷の門波あれやまず 山口誓子

問一 次の①・②のそれぞれの歌の特徴としてもつともふさわしい短歌を、A～Dからそれぞれ一つずつ選び記号で答えなさい。

① 視覚にうったえてさびしい感じの出ている歌。

② 自然だけを材料にした雄大な感じのする歌。

問二 Dの短歌についての感想としてもつともふさわしいものを、次より選り記号で答えなさい。

- ア 川がひとすじ流れたその先に母の生まれた国があり、早く行きたいという気持ちが感じられるね。
- イ なたねの花が咲き乱れている母の生まれた国を、美しくしたいと願っていることが感じられるね。
- ウ 母の故郷の川もなたねの花もここより遠くにあるので、その土地を懐かしむ様子が感じられるね。
- エ 川が流れ一面黄色の菜の花畑に月が照っている、その母の故郷に、限らない愛情を感じているね。

問三 Eの俳句の季語と季節を答えなさい。

四 次の①・②の慣用句の使い方として正しいものを一つ選り記号で答えなさい。

- ① 案ずるより産むがやすし
- ア 安心して生きていけるようにしよう。
- イ じっくり思案したものを作っていこう。
- ウ あれこれ考えずはやつてみよう。
- エ 案内するより自由に進んでいこう。

② 他山の石

- ア 人の言動を自分をみがかく参考にすること。
- イ 敵に囲まれて助けがなく孤立すること。
- ウ 数が多いだけで、ルールや統一のないこと。
- エ 他人の山の石をみがいて奉仕すること。

五

次の①・②の（ ）に入る適語をそれぞれ後のア～エから一つ選び記号で答えなさい。

① あなたがリーダーなら、この先どんなにきつい仕事も（ ）してつくす覚悟だ。

ア 自画自賛

イ 粉骨碎身

ウ 付和雷同

エ 選手宣誓

② 弟に、一日のゲームする時間を、短くするようにいくら話しても（ ）。

ア 寝耳に水だ

イ あぶはち取らずだ

ウ ぬかにくぎだ

エ ぬれ手であわだ

六 次の——部の漢字の読みを答えなさい。

- ① この大会に参加できて本望だ。
- ② 学校の上履きを貸与する。
- ③ 局地的な豪雨で土砂が流れ出す。
- ④ よい作物が育つようしっかりと田畑を耕す。
- ⑤ トートバッグを提げて歩く。

七 次の——部のカタカナを漢字に直しなさい。

- ① 幼なじみの友人が本番で実力をハツキした。
- ② 父と母とはタイシヨウ的な性格でいつも意見が合わない。
- ③ 体育祭の前日の準備で足の骨をオった。
- ④ 兄とはいつも激しいロンセンとなる。
- ⑤ ずるいことをしたので仲間から非難をアびた。

